

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつとり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ
令和元年7月16日 現在

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	水稲	・現地ほ場において、一部で茎数増加が緩慢なほ場も見られるが、全般に茎数は多く、目立った病害虫の発生は見られず、生育は順調である。 ・農業試験場作況試験において、早生品種の幼穂形成期到達は平年に比べて1～2日早い。品種や作期により、生育に若干の違いはあるが、おおそ平年並の生育である。	・適正な穂肥施用を行い、適期防除を行う。 ・中干しが不十分なほ場では、間断かん水の乾田期間を長くし、田面を徐々に固くしていく。
	大豆	おむね順調に生育しており、目立った障害は報告されていない。一部で湿害がみられるが回復可能な程度である。	・排水対策につとめ、湿害回避を図る。
果樹	ナシ	・7月13日作況調査の結果、二十世紀は横径56.1mm(平年比104%)、平年より2日早い肥大で、順調な生育となっている。 ・特に目立った病害虫の発生は見られない。	・ハウス二十世紀は、7月26日に県の査定会を開催する予定。 ・晴天が続くようであれば、かん水を実施する。 ・高温傾向が続くとハダニ類の発生が多くなるので注意する。 ・7月11日に果樹カメムシ類の注意報が発表されており、園内を見回り、発生が確認されたら早めに防除を実施する。
	カキ	・生育は順調である。 ・特に目立った病害虫の発生は見られない。	・仕上げ摘果が終わってない園では早急を実施する。 ・7月11日に果樹カメムシ類の注意報が発表されており、園内を見回り、発生が確認されたら早めに防除を実施する。
	ブドウ	・「デラウエア」は出荷中盤となっている。本年は開花がバラつき、ジベレリン適期処理が難しかったため、一部種子の混入がある。 ・「巨峰」「ピオーネ」は着色期となり、果粒肥大は平年並みで推移している。 ・着色は夜温が低いため、前年よりやや早めに推移している。 ・「シャインマスカット」の生育は、昨年よりやや遅れているが順調。 ・目立った病害の発生は見られない。	・出荷時期は平年並みと見込まれる。 ・湿度が高い時期に収穫期となっているため、病気の発生に注意が必要である。
野菜	白ねぎ	【春ねぎ】 育苗～定植中。比較的気温が低いため、育苗、定植後も順調に生育。 【夏ねぎ】 平坦地ではトンネル栽培作型が6月下旬から、無トンネル栽培が7月上旬から収穫が始まっている。生育は概ね順調。山間部では7月下旬ごろから収穫の見込み。 全果的に白絹病の発生が多くなっている。 【秋冬ねぎ】 定植後の乾燥による生育停滞は回復し、7月上旬に西部地区を中心とした大雨の影響もなく、概ね順調に生育。 一部でべと病、白絹病が目立つほ場があるが、影響は少ない。 【秋冬どり】 例年どおりに7月上旬から播種が始まっている。育苗は概ね順調。	・気温上昇に伴い軟腐病、白絹病、ネギアザミウマの多発が懸念されるため、防除が遅れないよう徹底する。 ・梅雨末期の豪雨に備え、排水対策を徹底する。土砂の流入などで明渠が浅くなっている場合は、スムーズに排水されるよう土砂を取り除いておく。 ・春ネギ育苗ハウスの暑熱対策を徹底する。
	ブロッコリー	例年どおりに7月上旬から播種が始まっている。育苗は概ね順調。	・7月下旬頃から順次定植の見込み。 ・高温期は発芽促進のため、育苗ハウスの暑熱対策を徹底する。
	すいか	・7月13日現在、出荷量12,260t(前年比109%)。販売額27億6,500万円(前年比102%) (いずれも全農とつとり取扱い)。 ・出荷終盤となり大玉化が進んでいる(特30%、4L20%(出荷ケース割合))。 ・7月上旬に一部で降雨による裂果があったが大きな影響はない。	・中部地区の出荷は7月22日頃まで。西部地区は8月中旬まで出荷の見込み。
	ながいも	・出芽後の初期生育の遅れの影響が残っており、地上部生育が一週間程度遅れている。	・炭疽病、ハダニ、ナガイモコガなど病害虫の初期防除を徹底する。 ・芋の肥大期となるため、かん水、追肥を適正に管理する。
	アスパラガス	・夏芽はほぼ平年並みに出芽し出荷中。 ・6月中下旬からスリップス類が増加しており、一部で茎枯病が発生している。	・継続してスリップス、茎枯病の防除を徹底する。 ・病害の発生抑制のため、風通しをよくするとともに防除時に薬液が十分かかるように、わき芽、下枝、伸長して垂れ下がった枝は早めに除去する。 ・高温乾燥が続くと、収量減、品質低下するため、適宜かん水する。
	トマト	【夏秋トマト】 ・7月8日から出荷開始(昨年より1日早い)。5月中旬定植で7段前後の開花となっている。 ・一部で灰色かび病、すすかび病、オオタバコガの発生があるが影響は少ない。 ・7月9日の局地的な大雨により一部で浸水したが、生育に影響はなく被害はない。	・梅雨明けが遅いと日照不足により草勢低下、花質低下が懸念されたため、薬剤防除とともに葉面散布剤を散布し、草勢維持を図る。 ・草勢が低下しないよう、時期が遅れないよう追肥する。
	ミニトマト	【抑制作型】 ・定植は7月上旬でほぼ終了。6月上旬定植のもので7月10日現在4段目が開花中。花数が昨年よりも少ない傾向。 ・アザミウマ類が発生し始めている。	・草勢回復を図るため、薬剤防除とともに葉面散布剤を散布する。 ・今後、アザミウマ類の増加が予想されるため、防除を徹底する。 ・草勢が低下しないよう、時期が遅れないよう追肥する。
花き	リンドウ	【智頭町】 ・出荷始めは6月21日から昨年より5日遅れとなった。極早生系統は収穫終了。 ・防除していることもありスリップス、褐斑病等の発生は少ないが、一部でオオタバコガやマルハナバチの被害が見られる。 ・一部で葉害と思われる症状が葉に見られ、原因を調査中。 【三朝町】 ・大谷(標高550m)では開花初め。生育初期の曲がりが多く、市場出荷は難しい状況。 ・鎌田(標高80m)では極早生は開花終了。株立ち本数が少なく、出荷は困難な状況。	・引き続き防除を促す。
	シンテツポウユリ	【東部地区】 【露地作型】 ・花蕾の見え始めが7月上旬からと、昨年に比べ7日～10日程度遅れている。 ・葉枯病、アブラムシは防除していることから少ない。 【中部地区】 【露地作型】 ＜倉吉市＞ ・盆出荷作型は草丈80～90cm、発蕾がみられる。病害虫も少発生で概ね問題なし。 ・晩生は抽苔中。 【ハウス彼岸作型】 ＜北栄町＞ ・2戸が栽培中。1戸はバスマドの障害と思われる活着不良が起きているが回復傾向にある。1戸は順調に生育している。 【ハウス抑制作型】 ・7月上旬定植、活着している。本葉3～4枚。順調に生育している。	・7月末からの出荷となる見込み。盆前出荷ピークにならないほ場があると思われる。 ・葉枯れ病の予防、梅雨明け前のホコリダニ防除、梅雨明け後のヤケ防止に注意する。
	トルコギキョウ	【東部地区】 ・シルバー寒冷紗は被覆していたものの、ハウス内の高温等の影響で、ややボリューム感のない姿となっている。 【中部地区】 ・現在、2戸出荷中(季咲作型)。 ・スイカ後作ハウス抑制については7/9～7/12頃に定植を開始。 【日野地区】 ・高冷地育苗は7/8に引き渡し。前年と同様の苗質で納品となった。	・梅雨明けのタイミングにあわせ、シルバー寒冷紗の再被覆を促す。 ・高冷地育苗については、慣行の冷蔵苗と抽苔率に差が生じるか要観察。
	キク	＜倉吉市＞ ・盆出荷用の早いものは草丈80～100cm。 ・病害虫の発生は見られず、順調に生育している。 ＜北栄町＞ ・6月中旬から出荷中。	・倉吉市の露地作型(コギク)は7月下旬から出荷予定。
畜産	飼料用トウモロコシ	・生育は平年並みで順調に生育中。 ・アワヨトウの発生が見られるがごく一部であり、今後の生育にも支障はない。	・8月中旬、盆前頃から収穫作業がコントラ組織等で開始される予定。
	イタリアンライグラス等	・イタリアンライグラスでは、ほとんどの地域で2番草の刈り取りが終了し、一部地域では3番草の収穫が始まっている。	
その他	・7月11日広島気象台発表の1ヶ月予報では、向こう1か月の平均気温は、平年並か低い見込みと予想されている。 ・例年、梅雨明け(平年:7月21日)以後は急激に気温が上昇することから、熱中症には注意が必要である。	【予防方法】 ・できるだけ気温の高い時間帯を避けて作業する。 ・休憩をこまめにとり、作業時間を短くする。特に気温が高くなりやすいハウス内の作業では注意する。 ・作業するハウスは、できるだけ換気に努める。 ・日射を防ぐ服装をする。通気性の良い素材の長袖シャツと長ズボンを着用し、つばの広い帽子などを被る。 ・水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給する。	